



ASSESSMENT OF TECHNOLOGY
FOR BUILDING CONSTRUCTION
GBRC FOUNDATION

性能証明第 01-15 号

建築技術性能証明書

技術名称：Z-M ダイヤレン工法—材端部に開口を設けた RC 梁の補強工法—

申込者：コーリョー建販株式会社 代表取締役 大田 司

東京都文京区千駄木 1 丁目 23 番 6 号

(本工法の開発は、株式会社銭高組、前田建設工業株式会社と共同で行われたものである。)

技術概要：本技術は、鉄筋コンクリート梁材端部に設けた開口部を既製開口補強筋「ダイヤレン（普通強度）」または「ダイヤレン S（高強度）」と孔際せん断補強筋ならびに主筋に緊結したコ型補強筋を組み合わせて補強する技術である。本技術を適用することによって、鉄筋コンクリート梁材端部に降伏ヒンジ領域が形成されても、設計で保証すべき鉄筋コンクリート梁の曲げ終局耐力と十分な塑性変形性能を確保できる。

開発趣旨：鉄筋コンクリート造共同住宅などでは、設備配管用の開口部を大梁に設けることが多い。従来、開口位置は、構造性能確保の観点から大梁の材端部を避け、開口部から大梁材端部までの間に設備配管収納のための「下がり天井」を設けていた。しかし、その分だけ室内空間を圧迫することになる。本技術は、そのような問題を解消し、設計の自由度を高めることを意図して開発したものである。

当財団の建築技術認証・証明事業実施要領に基づき、上記の性能証明対象技術の性能について、下記の通り証明する。

2002 年 1 月 8 日

財団法人 日本建築総合試験所

理事長 五十嵐 定義



記

証明方法：申込者より提出された下記の資料に基づき性能証明を行った。

Z-M ダイヤレン工法「性能証明のための説明資料」

この資料には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した説明資料がまとめられている。

この資料のほかに、「Z-M ダイヤレン工法 設計指針」および「実験資料」が提出されている。設計指針は、本工法による構造設計に係わる事項を定めたものである。

証明内容：本技術の性能は、以下の通り要約される。（性能の詳細は別添評価報告書に記載）

申込者が提案する「Z-M ダイヤレン工法 設計指針」によって設計される材端部に開口を設けた鉄筋コンクリート梁は、長期許容荷重時および短期許容荷重時の要求性能を満足し、設計で保証すべき曲げ終局耐力と目標としている塑性変形性能を有すると判断される。